

科目名	簿記論Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	梶原 英彦		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	簿記は企業などの事業活動を帳簿に記録して、その記録内容から経営状態を明らかにすることを目的としており、この経営状態を明らかにするために財務諸表を作成する。財務諸表を誰が見ても同様に解釈できるようにするためには、財務諸表を作る際のルールを決めておく必要があり、そのルールが「簿記」である。つまり、簿記論では財務諸表を作るためのルールと実際の計算を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る	
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る	
テキスト・教材 参考図書	・TAC 簿記論テキスト／簿記論トレーニング／簿記論ミニテスト／実力テスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	推定簿記(1) 勘定分析による推定				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	3- 4	推定簿記(2) 内訳不明の推定、収支額の推定				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5- 6	帳簿組織(1) 単一仕訳帳制、元帳制、補助簿併用制				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	7- 8	帳簿組織(2) 特殊仕訳帳制				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9- 10	帳簿組織(3) 総勘定元帳への転記方法、一部当座取引				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11- 12	帳簿組織(4) 帳簿組織のまとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	13- 14	新株予約権(1) 新株予約権、新株予約権付社債				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	15- 16	新株予約権(2) 一括法、区分法				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	17- 18	実力テスト				授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと	
	19- 20	繰延資産・組織再編(1) 企業結合、事業譲受				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	21- 22	組織再編(2) 吸収合併、株式交換				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	23- 24	組織再編(3) 企業評価額の算定				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	◎				60%
宿題・レポート		○	◎		◎		20%
出席状況・授業態度					◎		20%
履修上の注意							

科目名	消費税法V						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	小林 憲一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	消費税は、商品やサービスを購入した場合に課税される税金です。分類としては間接税になり、税金を負担する者と税金を納める者が異なっている税金である。製造や流通を行っている各事業者は、最終的な消費者が負担する税金を一時的に預かっているという状態にあり、一定の要件を満たしていれば、課税事業者として預かった消費税の納付をする手続き及び申告書の作成を学ぶ。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					消費税法の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、申告書の作成ができる。	
テキスト・教材 参考図書	TAC 直前対策テキスト、演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-4	税抜経理・不動産業 解説・演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5-8	国等に対する特例			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9-12	実正の請求・届出等 解説・演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	13	実力テスト 演習・解説					
	17	直前対策 改正編 解説			総復習を行うこと		
	21	直前対策 改正編 演習			総復習を行うこと		
	25	直前対策 理論編第1回 解説			総復習を行うこと		
	29	直前対策 理論編 第1回 演習			総復習を行うこと		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	消費税法Ⅵ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	小林 憲一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	消費税は、商品やサービスを購入した場合に課税される税金です。分類としては間接税になり、税金を負担する者と税金を納める者が異なっている税金である。製造や流通を行っている各事業者は、最終的な消費者が負担する税金を一時的に預かっているという状態にあり、一定の要件を満たしていれば、課税事業者として預かった消費税の納付をする手続き及び申告書の作成を学ぶ。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					消費税法の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、申告書の作成ができる。	
テキスト・教材 参考図書	TAC 直前対策テキスト、演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	直前対策 改正編 解説				総復習を行うこと	
	5-8	直前対策 改正編 演習				総復習を行うこと	
	9-12	直前対策 理論編第1回 解説				総復習を行うこと	
	13-	直前対策 理論編 第1回 演習				総復習を行うこと	
	1-4	直前対策 計算編 第1回 解説				総復習を行うこと	
	5-8	直前対策 計算編 第1回 演習				総復習を行うこと	
	9-12	実力完成答練① 演習・解説				総復習を行うこと	
	13-	直前対策 理論編 第2回 解説				総復習を行うこと	
	17-	直前対策 理論編 第2回 演習				総復習を行うこと	
	21-	直前対策 計算編 第2回 解説				総復習を行うこと	
	25-	直前対策 計算編 第2回 演習				総復習を行うこと	
	29-	実力完成答練② 演習・解説				総復習を行うこと	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	消費税法Ⅶ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	小林 憲一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	消費税は、商品やサービスを購入した場合に課税される税金です。分類としては間接税になり、税金を負担する者と税金を納める者が異なっている税金である。製造や流通を行っている各事業者は、最終的な消費者が負担する税金を一時的に預かっているという状態にあり、一定の要件を満たしていれば、課税事業者として預かった消費税の納付をする手続き及び申告書の作成を学ぶ。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					消費税法の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、申告書の作成ができる。	
テキスト・教材 参考図書	TAC 直前対策テキスト、演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	直前対策演習 理論試験委員対策①				問題演習の復習をすること	
	3- 4	直前対策演習 理論試験委員対策②				問題演習の復習をすること	
	5- 6	直前対策演習 直前対策講義第1回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	7- 8	直前対策演習 実力完成答練第1回				問題演習の復習をすること	
	9- 10	直前対策演習 直前対策講義第2回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	11- 12	直前対策演習 実力完成答練第2回(過去問第66回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	13- 14	直前対策演習 直前対策講義第3回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	15- 16	直前対策演習 実力完成答練第3回				問題演習の復習をすること	
	17- 18	直前対策演習 直前対策講義第4回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	19- 20	直前対策演習 実力完成答練第4回(過去問第65回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	21- 22	直前対策演習 直前対策講義第5回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	23- 24	直前対策演習 実力完成答練第5回(過去問第62回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	25- 26	直前対策演習 直前対策講義第6回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	27- 28	直前対策演習 実力完成答練第6回				問題演習の復習をすること	
29- 30	直前対策演習 試験委員対策模擬試験 試験前のレクレーション				問題演習の復習をすること		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	国税徴収法Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	小林 憲一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	<p>国税徴収法とは、所得税や消費税のような税金ではなく、国税をどのように徴収するかに関する法律である。基本的には、税金は納税者が指定された期日までに自主的に現金で納付していくものですが、中には指定期日を過ぎても納付されないケースもある。そういった場合において、どのように滞納された税金の納付を進めていくかということ学ぶ。</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国税徴収法の目的・内容・特色・地位について理解できる	
	○					国税の優先権と他の債権との調整ができる	
	○					第二次納税義務について理解できる	
	○					滞納処分について理解できる	
テキスト・教材 参考図書	・TAC テキスト／トレーニング／ミニテスト／実力テスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-4	財産の調査			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5-8	財産の差し押さえ(案件・請求)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9-12	財産の差し押さえ(手続き)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	13-16	実力テスト			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	17-20	財産の差し押さえ(効力)			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	21-24	交付要求			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	国税徴収法V						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	小林 憲一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	<p>国税徴収法とは、所得税や消費税のような税金ではなく、国税をどのように徴収するかに関する法律である。基本的には、税金は納税者が指定された期日までに自主的に現金で納付していくものですが、中には指定期日を過ぎても納付されないケースもある。そういった場合において、どのように滞納された税金の納付を進めていくかということ学ぶ。</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国税徴収法の目的・内容・特色・地位について理解できる	
	○					国税の優先権と他の債権との調整ができる	
	○					第二次納税義務について理解できる	
	○					滞納処分について理解できる	
テキスト・教材 参考図書	・TAC テキスト／トレーニング／ミニテスト／実力テスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	換価及び配当				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5-8	国税と他の債権との調整(原則)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9-12	国税と他の債権との調整(その他)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	13-16	実力テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	17-20	民法(時効～失敗特権)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	21-24	民法(質権～借地権)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	25-28	民法(仮登記～不動産登記法)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	29-32	民法(詐害行為取消権～賃貸借契約)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	国税徴収法Ⅵ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	小林 憲一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	<p>国税徴収法とは、所得税や消費税のような税金ではなく、国税をどのように徴収するかに関する法律である。基本的には、税金は納税者が指定された期日までに自主的に現金で納付していくものですが、中には指定期日を過ぎても納付されないケースもある。そういった場合において、どのように滞納された税金の納付を進めていくかということ学ぶ。</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国税徴収法の目的・内容・特色・地位について理解できる	
	○					国税の優先権と他の債権との調整ができる	
	○					第二次納税義務について理解できる	
	○					滞納処分について理解できる	
テキスト・教材 参考図書	TAC テキスト、トレーディング、直前対策テキスト、演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	民法(債権の譲渡・消滅～強制執行・仮差押え)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5-8	国税と他の債権との調整(債権の優先等)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9-12	国税と他の債権との調整(競合の調整)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	13-	国税と他の債権との調整(物的納税責任)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	1-4	国税と他の債権との調整(例示計算問題)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5-8	第二次納税手続(徴収手続)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9-12	第二次納税手続(合名会社等の社員)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	13-	第二次納税手続(清算人等)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	17-	第二次納税手続(清算受託者等)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	21-	第二次納税手続(同族会社)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	25-	第二次納税手続(共同的事業者)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	29-	第二次納税手続(人格のない社団等)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	◎				60%
宿題・レポート		○	◎		◎		20%
出席状況・授業態度					◎		20%
履修上の注意							

科目名	国税徴収法Ⅶ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	小林 憲一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	<p>国税徴収法とは、所得税や消費税のような税金ではなく、国税をどのように徴収するかに関する法律である。基本的には、税金は納税者が指定された期日までに自主的に現金で納付していくものですが、中には指定期日を過ぎても納付されないケースもある。そういった場合において、どのように滞納された税金の納付を進めていくかということ学ぶ。</p>						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国税徴収法の目的・内容・特色・地位について理解できる	
	○					国税の優先権と他の債権との調整ができる	
	○					第二次納税義務について理解できる	
	○					滞納処分について理解できる	
テキスト・教材 参考図書	TAC 直前対策テキスト、演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	直前対策演習 理論試験委員対策①				問題演習の復習をすること	
	3- 4	直前対策演習 理論試験委員対策②				問題演習の復習をすること	
	5- 6	直前対策演習 直前対策講義第1回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	7- 8	直前対策演習 実力完成答練第1回				問題演習の復習をすること	
	9- 10	直前対策演習 直前対策講義第2回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	11- 12	直前対策演習 実力完成答練第2回(過去問第66回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	13- 14	直前対策演習 直前対策講義第3回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	15- 16	直前対策演習 実力完成答練第3回				問題演習の復習をすること	
	17- 18	直前対策演習 直前対策講義第4回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	19- 20	直前対策演習 実力完成答練第4回(過去問第65回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	21- 22	直前対策演習 直前対策講義第5回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	23- 24	直前対策演習 実力完成答練第5回(過去問第62回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	25- 26	直前対策演習 直前対策講義第6回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
27- 28	直前対策演習 実力完成答練第6回				問題演習の復習をすること		
29- 30	直前対策演習 試験委員対策模擬試験 試験前のレクレーション				問題演習の復習をすること		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							



科目名	簿記論 V						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	梶原 英彦		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建設会社において経理事務として勤務		
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	簿記は企業などの事業活動を帳簿に記録して、その記録内容から経営状態を明らかにすることを目的としており、この経営状態を明らかにするために財務諸表を作成する。財務諸表を誰が見ても同様に解釈できるようにするためには、財務諸表を作る際のルールを決めておく必要があり、そのルールが「簿記」である。つまり、簿記論では財務諸表を作るためのルールと実際の計算を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る	
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る	
テキスト・教材 参考図書	・TAC 簿記論テキスト／簿記論トレーニング／簿記論ミニテスト／実力テスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	組織再編(4) 事業分離、事業譲渡				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	3- 4	組織再編(5) 会社分割、組織再編のまとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5- 6	会計上の変更・誤謬の訂正(1) 会計方針の変更、会計上の見直し				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	7- 8	会計上の変更・誤謬の訂正(2) 過去の誤謬の訂正				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9- 10	特殊商品売買(1) 割賦販売 未実現利益整理法(回収基準、回収期限)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11- 12	特殊商品売買(2) 割賦販売 対照勘定法(回収基準、回収期限)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	13- 14	特殊商品売買(3) 委託販売、積送諸掛、荷為替手形				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	15- 16	特殊商品売買(4) 受託販売				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	17- 18	特殊商品売買(5) 試用販売				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	19- 20	特殊商品売買(6) まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	21- 22	得点力養成講義 取捨選択のやり方				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	23- 24	実力テスト 補助問題				授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと	
	27- 28	過去問演習 第66回本試験第一問／第二問				問題演習の復習をすること	
	29- 30	過去問演習 第66回本試験第三問				問題演習の復習をすること	
	31- 32	過去問演習 第67回本試験第一問／第二問				問題演習の復習をすること	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	就職実務 I (面接対策)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	梶原 英彦		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職採用試験の為に「履歴書」「エントリーシート」を作成する。</li> <li>・就職試験の面接に合格する為に模擬面接を行い、質問の趣旨に沿った的確な受け答えが出来るようになる。</li> <li>・ナビサイトを利用したエントリーや申請の方法を学び、受験の流れを確認する。</li> </ul>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				志望する業界・職種についての特徴を正しく理解し、志望理由を説明できる。	
	○	○				学んで来た資格や自身の強みについて体系的にまとめ、履歴書を作成できる。	
	○	○	○			面接の手順を理解し、ロールプレイングにおいて立ち居振る舞いを実行できる。	
	○	○				面接において受けた質問に対して的確に受け答えを行える。	
	○	○				ウェブの就職活動ナビサイトを利用し、エントリーや受験手続を実行できる。	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職環境を知ろう①就職活動の流れとスケジュール					
	2	就職環境を知ろう②様々な雇用形態と働き方					
	3	自己分析・他己分析①					
	4	自己分析・他己分析②					
	5	仕事研究①会社の基礎知識				企業研究レポートを作成・提出。	
	6	仕事研究②業界と職種					
	7	自己表現①自己PR作成				自己PR等の課題を作成・提出。	
	8	自己表現②志望職種と志望業種					
	9	ウェブによる就職活動(ナビサイトの活用とエントリー)					
	10	面接試験対策①求職票受付面接について学ぶ					
	11	面接試験対策②面接のマナーと動き					
	12	面接試験対策③グループディスカッション					
	13	面接試験対策④よくある質問の傾向と対策					
	14	面接試験対策⑤ロールプレイング					
	15	面接試験対策⑥課題フィードバック					
評価方法	(1)課題(自己PR・履歴書の作成など)を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書・レポート提出	○	◎				40%
	面接練習	○	◎	◎	◎		40%
	授業態度、出席状況				◎		20%
履修上の注意	出席が20回(全30回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	簿記論Ⅵ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	梶原 英彦		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	簿記は企業などの事業活動を帳簿に記録して、その記録内容から経営状態を明らかにすることを目的としており、この経営状態を明らかにするために財務諸表を作成する。財務諸表を誰が見ても同様に解釈できるようにするためには、財務諸表を作る際のルールを決めておく必要があり、そのルールが「簿記」である。つまり、簿記論では財務諸表を作るためのルールと実際の計算を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る	
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る	
テキスト・教材 参考図書	・TAC 簿記論直前対策テキスト／簿記論直前対策トレーニング／直前対策演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	直前対策演習 売価還元法 リース取引(残価保証、維持管理費用相当額)				問題演習の復習をすること	
	5-6	直前対策演習 実力完成答練①				問題演習の復習をすること	
	7-8	直前対策演習 キャッシュフロー計算書作成手順(直接法、間接法)				問題演習の復習をすること	
	9-10	直前対策演習 実力完成答練②				問題演習の復習をすること	
	11	直前対策演習 スtockオプション				問題演習の復習をすること	
	13	直前対策演習 資産除去債務、その他有価証券(部分純資産直)				問題演習の復習をすること	
	15	直前対策演習 実力完成答練③				問題演習の復習をすること	
	17	直前対策演習 圧縮記帳				問題演習の復習をすること	
	19	直前対策演習 圧縮積立金と税効果会計、法廷実行税率の変更				問題演習の復習をすること	
	21	直前対策演習 実力完成答練④				問題演習の復習をすること	
	23	直前対策演習 為替予約、ヘッジ会計、税務上の減価償却				問題演習の復習をすること	
	25	直前対策演習 実力完成答練⑤				問題演習の復習をすること	
	27	直前対策演習 セール・アンド・リースバック取引、リース取引(貸)				問題演習の復習をすること	
29	直前対策演習 所有権移転・所有権移転外ファイナンス・リース取				問題演習の復習をすること		
31	直前対策演習 実力完成答練⑥				問題演習の復習をすること		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	簿記論Ⅶ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	梶原 英彦		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	簿記は企業などの事業活動を帳簿に記録して、その記録内容から経営状態を明らかにすることを目的としており、この経営状態を明らかにするために財務諸表を作成する。財務諸表を誰が見ても同様に解釈できるようにするためには、財務諸表を作る際のルールを決めておく必要があり、そのルールが「簿記」である。つまり、簿記論では財務諸表を作るためのルールと実際の計算を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					勘定科目や簿記上の取引、仕訳の仕組みを理解し仕訳が出来る	
		○				簿記の計算構造を理解し帳票作成が出来る	
テキスト・教材 参考図書	・TAC 簿記論直前対策テキスト／簿記論直前対策トレーニング／直前対策演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	直前対策演習 補助問題(過去本試験問題第67回／第三問)				問題演習の復習をすること	
	3- 4	直前対策演習 連結財務諸表作成手順				問題演習の復習をすること	
	5- 6	直前対策演習 直前予想答練①				問題演習の復習をすること	
	7- 8	直前対策演習 直前予想答練①解き直し				問題演習の復習をすること	
	9- 10	直前対策演習 補助問題(過去本試験問題第68回／第一問、第				問題演習の復習をすること	
	11- 12	直前対策演習 連結財務諸表作成 個別財務諸表の修正/税効				問題演習の復習をすること	
	13- 14	直前対策演習 連結財務諸表作成 段階取得				問題演習の復習をすること	
	15- 16	直前対策演習 連結財務諸表作成 資本連結(支配獲得後処理				問題演習の復習をすること	
	17- 18	直前対策演習 直前予想答練②				問題演習の復習をすること	
	19- 20	直前対策演習 直前予想答練②解き直し				問題演習の復習をすること	
	21- 22	直前対策演習 補助問題(過去本試験問題第68回／第三問)				問題演習の復習をすること	
	23- 24	直前対策演習 連結財務諸表作成 成果連結(資金取引)				問題演習の復習をすること	
	25- 26	直前対策演習 連結財務諸表作成 成果連結(商品売買取引)				問題演習の復習をすること	
27- 28	直前対策演習 直前予想答練③				問題演習の復習をすること		
29- 30	直前対策演習 直前予想答練③解き直し 試験前のレクレーショ				問題演習の復習をすること		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	財務諸表論Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	梶山 豊		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	財務諸表論では、税理士科目の簿記論と同様に税理士試験必須科目として学習する科目となります。簿記論では財務諸表の作成を中心とした学習に対して、財務諸表論では、株主や債権者など企業の利害関係者へ、財政状態及び経営成績を報告するための財務諸表(貸借対照表・損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等計算書など)の理解とその作成方法を問われる科目です。財務諸表論の授業では、税理士試験必須科目の財務諸表論の合格を目指します。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					財務諸表論の全体構造を理解できる。	
		○				会計公準・会計原則・概念フレームワークを理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	・TAC 財務諸表論テキスト／財務諸表論トレーニング／財務諸表論ミニテスト／実力テスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	財務諸表論の全体構造(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	3- 4	財務諸表論の全体構造(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5- 6	会計公準・会計原則(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	7- 8	会計公準・会計原則(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9- 10	損益会計				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11- 12	資産会計				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	13- 14	負債会計				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	15- 16	財務諸表				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	17- 18	概念フレームワーク(1)				授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと	
	19- 20	概念フレームワーク(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	21- 22	概念フレームワーク(3)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	23- 24	金融基準				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	財務諸表論Ⅴ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	梶山 豊		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	財務諸表論では、税理士科目の簿記論と同様に税理士試験必須科目として学習する科目となります。簿記論では財務諸表の作成を中心とした学習に対して、財務諸表論では、株主や債権者など企業の利害関係者へ、財政状態及び経営成績を報告するための財務諸表(貸借対照表・損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等計算書など)の理解とその作成方法を問われる科目です。財務諸表論の授業では、税理士試験必須科目の財務諸表論の合格を目指します。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					財務諸表論の全体構造を理解できる。	
		○				会計公準・会計原則・概念フレームワークを理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	・TAC 財務諸表論テキスト／財務諸表論トレーニング／財務諸表論ミニテスト／実力テスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	リース会計(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	3- 4	リース会計(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	5- 6	減損基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	7- 8	減損基準(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9- 10	棚卸資産基準				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	11- 15	研究開発基準 ソフトウェア				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	17- 17	退職給付基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	19- 19	退職給付基準(2)				授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと	
	21- 21	資産除去債務基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	23- 23	資産除去債務基準(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	25- 25	資産除去債務基準(3)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	27- 27	連結財務諸表基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	29- 29	連結財務諸表基準(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	31- 31	連結財務諸表基準(3)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
定期試験		◎	◎				60%
宿題・レポート		○	◎		◎		20%
出席状況・授業態度					◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	財務諸表論Ⅵ							
科目名(英)								
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	梶山 豊			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験				
対象学科・学年	経理専攻科1年							
授業概要	財務諸表論では、税理士科目の簿記論と同様に税理士試験必須科目として学習する科目となります。簿記論では財務諸表の作成を中心とした学習に対して、財務諸表論では、株主や債権者など企業の利害関係者へ、財政状態及び経営成績を報告するための財務諸表(貸借対照表・損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等計算書など)の理解とその作成方法を問われる科目です。財務諸表論の授業では、税理士試験必須科目の財務諸表論の合格を目指します。							
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					財務諸表論の全体構造を理解できる。		
		○				会計公準・会計原則・概念フレームワークを理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	・TAC 財務諸表論テキスト／財務諸表論トレーニング／財務諸表論ミニテスト／実力テスト							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1- 2	税効果会計(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	3- 4	税効果会計(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5- 6	工事契約基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	7- 8	工事契約基準(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	9- 10	企業結合基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11- 12	企業結合基準(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	13- 14	事業分離基準				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	15- 16	外貨換算基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	17- 18	外貨換算基準(2)				授業内容に係る実力テストを実施するので、復習しておくこと		
	19- 20	純資産表示基準				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	21- 22	ストックオプション基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	23- 24	ストックオプション基準(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	25- 26	包括利益計算書基準(1)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	27- 28	包括利益計算書基準(2)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	29 -3	キャッシュフロー計算書基準				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	◎				60%
宿題・レポート		○	◎		◎		20%	
出席状況・授業態度					◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。							

科目名	財務諸表論Ⅶ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	64時間	担当者	梶山 豊		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	財務諸表論では、税理士科目の簿記論と同様に税理士試験必須科目として学習する科目となります。簿記論では財務諸表の作成を中心とした学習に対して、財務諸表論では、株主や債権者など企業の利害関係者へ、財政状態及び経営成績を報告するための財務諸表(貸借対照表・損益計算書、キャッシュフロー計算書、株主資本等計算書など)の理解とその作成方法を問われる科目です。財務諸表論の授業では、税理士試験必須科目の財務諸表論の合格を目指します。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					財務諸表論の全体構造を理解できる。	
		○				会計公準・会計原則・概念フレームワークを理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	・TAC 財務諸表論直前対策テキスト／財務諸表論直前対策トレーニング／直前対策演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	直前対策演習 理論試験委員対策①				問題演習の復習をすること	
	3- 4	直前対策演習 理論試験委員対策②				問題演習の復習をすること	
	5- 6	直前対策演習 直前対策講義第1回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	7- 8	直前対策演習 実力完成答練第1回				問題演習の復習をすること	
	9- 10	直前対策演習 直前対策講義第2回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	11- 12	直前対策演習 実力完成答練第2回(過去問第66回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	13- 14	直前対策演習 直前対策講義第3回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	15- 16	直前対策演習 実力完成答練第3回				問題演習の復習をすること	
	17- 18	直前対策演習 直前対策講義第4回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	19- 20	直前対策演習 実力完成答練第4回(過去問第65回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	21- 22	直前対策演習 直前対策講義第5回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	23- 24	直前対策演習 実力完成答練第5回(過去問第62回類似問題)				問題演習の復習をすること	
	25- 26	直前対策演習 直前対策講義第6回【補助問題】				問題演習の復習をすること	
	27- 28	直前対策演習 実力完成答練第6回				問題演習の復習をすること	
	29- 30	直前対策演習 試験委員対策模擬試験 試験前のレクレーション				問題演習の復習をすること	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						



科目名	消費税法Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	小林 憲一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経理専攻科1年						
授業概要	消費税は、商品やサービスを購入した場合に課税される税金です。分類としては間接税になり、税金を負担する者と税金を納める者が異なっている税金である。製造や流通を行っている各事業者は、最終的な消費者が負担する税金を一時的に預かっているという状態にあり、一定の要件を満たしていれば、課税事業者として預かった消費税の納付をする手続き及び申告書の作成を学ぶ。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					消費税法の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				取引情報の処理・作成に関する一連の流れを理解し、申告書の作成ができる。	
テキスト・教材 参考図書	TAC 直前対策テキスト、演習問題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-3	簡易課税制度解説			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	4-6	簡易課税制度演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	7-9	リバースチャージ等 解説・演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	10-	実力テスト 演習・解説					
	13-	特定課税仕入れに係る対価の返還等 解説・演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	16-	譲渡等の時期等の特例 解説・演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	19-	合併の場合の中間申告制度 解説・演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	22-	納税義務の免除の特例 解説・演習			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							